The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 283.　　September 12th.　1891.　　第二百八十三號目次

EDITORIAL: No Preparation, no Peace.

CHILDREN'S COLUMN: "Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

MISCELLANEOUS: The Women of China. New Style of Penmanship. Number of Princesses. My Dead Father.

NOVEL: "Nagare no Ashi." (Only a Reed in the Stream.) "Koi no Kusari." (A Chain of Woe.)

BIOGRAPHICAL SKETCHES: Elizabeth the Philanthropist. Mrs. Thompson.

LITERARY: The Poems of the "Kokinshu" [illegible].

CRITICAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

●社說　準備なし、安心なし

●兒籃　小公子（若松しづ子）

●雜錄　支那の婦人、新習字法○當代皇女の員數○亡き父

●小說　流れの蘆○[illegible]戀の鎖

●史傳　博愛家エリサベス、タムソン夫人

●文學　[illegible]の起源

●批評　[illegible]○田口卯吉氏○[illegible]
和田垣博士の婦人論○[illegible]

●時事　大[illegible]黑田伯のステッキ○[illegible]

●手桶湯沸（の實地上）効能

手桶湯沸を使用したる人は皆な其便利重寶なるを賞し玉へり[illegible]津田仙君農業雜誌記者[illegible]三郎君なゞ特に之を珍重し玉ふよし仰せあり[illegible]々の微衷を述し家政の便利となりたるは謝すべきこと也。左に此の湯沸の効能を示す。

此湯沸にて湯を沸さんには最初よくおこりたる炭火を壺の太き處の中に半分程入れ而して其上に適宜に炭を加へ（少し口より風を吹込むも可なり）よく火勢の盛んになりたる時小桶或は盥手桶四斗樽等に水を汲込み[illegible]湯沸器を入るべし然るときは手桶一ぱいの水は僅かに二三十分時間に[illegible]へるべし最早や之れにて火を減さんと思はゞ其風入口の捨蓋を閉づるなり然る時は火は速にきゆるなり倘は又其の水桶に移さんとする時は炭を適宜に加へて用ゆべし又或はそろ〳〵湯を沸すか又は久しく火氣を保さんと欲せば捨蓋を少しく開き置くか僅に空氣の通る樣になし置く時は宛から埋火を貯ふるが如く[illegible]に火を保つ事妙なり。

又日々行水等に用ゐる時は[illegible]手桶に水を汲み置き日光を當て然る後[illegible]器械にて[illegible]手桶に入れ[illegible]後の用に用ゐるに至極都合よろしきなり。

又冬は小桶等に[illegible]器械を入れ湯を沸して[illegible]にも妙なり。

[illegible]温度を與ふれば室の中にて小桶に水を入れ此器械を入れて自由に植木の花を咲かしむるを得べし。

其時は火勢を余んまり盛ならしめざる樣風入口の蓋を少しく開き[illegible]時は埋火の中にて一夜を保たさしむるに僅か一兩度も炭を加へて充分なり。

泉水等厚氷の時に金魚等の凍死する等の節之れ亦前法の如くなして泉水を温むべし之は池面へ浮び出たる松枝等に器械を釣り置は妙なるべし。

北海道の如き極寒の地にありては往々水りふり居る[illegible]の[illegible]に用ゐるに[illegible]知此の處にて此器械を用ゐれ[illegible]利なり。

此器械は第一、簡便にして湯の沸き方早きこと、第二、安全にして火の用心の好き事、第三、經濟にして炭の入用至て少き事などさま〴〵の益あり。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百八十三號 明治二十四年九月十九日發兌

社説

準備なし、安心なし

準備とは、未來の爲に備ふるを謂ひ、安心とは現在に心を安んずるを謂ふ。后に備ふるは即ち今に安んぜざるが故にて、今に安んずるときは、之を后に備へんとするの所望あるとなし。準備と安心との事正に反對するに似たりと雖ども、實は決して然らざるなり。

人世の事は惣じて準備にあらざるはなし。人は云く、余は此事を成就せんと欲すと、其事の爲に準備し、準備完全し、結構落成して、則はち其事成就せりとせよ、而して其事を爲す所以のものは更に一大事の望む所ろあればなるべし、則はち現に此の一事を成就したるは、更に大なる一事の爲に之を準備したるに過ぎざるべし。

國家の爲に慨し、一事業を企だてたりとせよ、其事の望み達したらんとき、人世の準備悉とく畢りたる乎、否な、其一事業の成就したるが爲に、多少國家を改良したるものあるべし、然れども國家を理想の地に推進せんとを欲するの希望に對しては、此一事業の成就は、たゞ以て彼の理想の爲に準備したるに過ぎざるべし。

人は終生理想を滅すると能はず、理想上に懸りて吾を招くときは、吾は常に其爲に準備するものなり。吾れ勇を鼓して進み、品德やゝ上達するときは、理想ますゝゝ高く登りて、いよゝゝ高きより吾を招く、吾進むと多ければ、望む所ろ更に多し、即はち吾前に存して吾を促がす所ろの希望彌よ多きなり、吾の準備を要する所いよゝゝ增加せざるを得ず。

俊才同窓の學生をして後へに瞠若たらしめ、後ち何如なるものとなるべきかと多望優々たるものあり、半途業を卒へず忽然として死す。温たかきホームに愛らしき綠兒生れたり、顔花の如く、姿玉の如し、育ちて何如なる子とならんかと樂しみ盡きざるの日、俄然として碎け失せぬ。人歎じて云く、天道は是か非か、俊才何んぞ早世し、愛兒何んぞ夭すると。

左れど、俊才の早く死し、愛兒の幼あくして失せ行くを奇しむは、人世を達觀せざるものゝ迷ひなり、人世何處にゆくと

して此の早世夭死なからん、人世は即はち夭死早世を以て常とするもの也。

何ゆへに學校の科業を卒へざるものをのみ未卒業の人となす乎、人は到底未卒業のまゝにて死すべきものにあらずや。顔回は孔子たるの業を卒へずして死し、孔子は周公たるの業を卒へずして死す、人は皆な其理想道徳の業を卒へずして身先づ早く失するものにあらずや。

何ゆへに年幼なくして死するものをのみ夭死の人となす乎、人は元来皆な小兒のまゝにて死すべきものにあらずや、ソロモン天下の智を求めて悉とく之を聞きたり、而して其知らざること砂の如し、ニウトン万理を究めて人智の奥に達したり、而して其知らざる所茫々として涯なし、彼等ともに歎じて云く、あゝ吾れは幼な子の如き哉と。人のうちの最も偉大なる人智にて敎へて曰く、幼な子の如くならずば天國に入ること能はずと。上帝を敬し、其大道を畏れ、自ら謙して徳の立たざることに歎くものは、何人か其身の幼な子の如くなることを感ぜざるものあるべき。斯して道を望み徳を慕ひつゝ死す、其頭ら白髮を戴くと云ふと雖ども、猶は智徳の小兒たるのみ。人の死するとき、何人か小兒たらざるべき。

果して然らば、人は早世夭死するを以て常とす。未だ業を卒へず、齢ひ未だ高からず、半途年少にして忽まち死するを以て人生の常態となすなり。若し之を無常なりとせば、明定確實の事を指さして無常となすものなり。もし之を變なりとせば、普通尋常の事を指さして變をなすものなり。蓋し之れ變にあらず、無常にあらざる也。人世は即はち如此きものたるなり。人之を悲しとする乎、汝ち何故に之を悲しむ。見よ、人の世に存するは未來準備の爲めにあらずや、今の目前の世も亦、後世後年の爲に準備するものにあらずや、斯て準備の爲に一生を消し、準備最中に一命を終るは則はち當然の事にあらずや。當然の運に際し、當然の事を爲し、當然の命に終る、吾等何を歎き、何を悲しみとせん。

人の一生は準備なり、世上の万事亦た準備なり、準備は吾等が呼吸の空氣にして、吾等が到る處ろの世界なり、吾等は準備中に生れ出て、準備中に死し、準備を以て現世に存する一生涯の事業となす、豈に一日も準備せずして可ならんや。左らば、準備を以て常の心掛となす。而して其準備を爲し能

ふ丈け爲し、出來得べき限り盡くさば、則はち吾が現在の義務は正に了りたるなり。其理想する所ろ未だ悉く成就せずと云ふと雖ども、其理想の爲に今日に至る迄で爲し得べき限りの準備を成了せば、則はち今日に至る迄で生存したる吾が一生の功を成就したるなり。たとひ未だ其理想を掌に握らずと雖ども、心優に滿ち足るとを得べし。もし然らず苟くも其理想の悉とく成就するとを要せば、人は一生遂に滿足するとあらざるべし。何んとなれば、人の高尙なる道念は、遂に理想の泉源を枯らし盡くすと能はざれば也。

憫れむべきは、彼の準備を忽諸にしてたゞ未來の成業をのみ希望するの徒なり。如此き輩、もし其業とする所ろのもの未だ成らざる時身早く死せば、遂に其一生を如何んせんとする。死の招きは盜人の夜來る如く、夜半に嵐の吹き起るが如く、卒然として到る也。憫れむべし、彼の輩、怯々焉として首べを縮め、泣いて云はんとす、あゝ此の事未だ成らず、あゝ彼の事未だ成らずと、眼瞑して恨み未だ死せず、痛歎の鬼容しく屋上にさまよはんとす。君子の死に望むや如此き見惡きとあるなし。

吾の一生は準備なり、故に常に怠るとなし。然れども一生を通じて準備なるが故に、必らずしも萬事の悉とく成就するとを望みとせず、故に中途にして早世夭死するを以て常とし、之を恨むとなし。吾は斷へず準備す、而して常に安心悠々たり、吾は斷へず安心悠々す、而して常に準備し休するとあるなし。

今の世を觀るに、大ひに安心するものと、忙はしく準備するものとあり、而して其二つを兼ぬるもの極めて少なし。國勢を見て慨する所ろなく、民の疾苦を聞きて獨ふ所ろなく、自己の卑しきを覺りて歎く所ろなく、友の憫れむべきを察して勉むる所ろなく、便々慢々として可あり可なりと言ふものは、人情を矯め、是非を滅したる佛教禪家の悟道者なり、かかる安心の徒は準備の心を欠けり。

富は万の上に万を積まんとを欲し、名は譽れの上に譽れを重ねんとを欲し、位は望むと限りなく、樂しみに耽ると極まりなく、五尺の軀躰、底なきの慾を充たして所望上が上に多きは、俗世の爲に生れて俗世の爲に動く所ろの俗界の動物なり、斯る準備の徒は、斷へず準備して安心の度量を欠けり。

人は其地位に安心するより樂しきはなし、其地位に安心せざるものは、其足を確立せざるものなり、かゝる人民を以て、成立たる國は、其立てると極めて危ふし。

然れども人は其地位に滿足せざるより好きはなし、其地位に滿足せざるが故に常に進歩す、固く其地に立てり、然れども斷へず足を擧げて前に進まんとを望みとす、國にしてもしかかる人民なくば、其國決して進歩するとなし。

其地位に不滿足を懐きて、而して之に存する限り此地位に安心するは、則はち君子の道なり。人此の所存を存せずば、生きては常に歎き多し、死しては其一生を徒らにせんとす。人生は猶ほ巡禮の如し、巡るべく行く可き所ろ遥かに多し、然れども巡行したる土地は則はち巡行したるものにして、一々記憶明白なり。吾今日死するとき、吾が為せし所ろ、吾過たる所ろ如此しと安んじて答へ得るものあらば幸なり。あゝ朝に道を行はゞ、夕に死すとも可ならずや。俗々たる世上の親愛すべき同胞、何の故に然く悄々とし、又何の故に甚く怠慢する。たゞ安心して進まざるものは希はくは發憤せよ、たゞ準備して休せざるものは希はくは安心せよ。

兒籃

小公子

第十回（甲）

若松しづ子

當時、ドリンコート侯爵は曾て心に思ふたとのないさま〲のとを考へられ升たが、其考といふは、何れの道、孫息子に關係して居り升た。此老人の性質の中で、最も強い處は、其傲慢氣でしたが、孫息子は一から十まで其傲慢氣を滿足させて居り升た、そして、此性質のある為に、世の中が急に面白くなつて來升た、第一、己れの世嗣たるべきものを世の人に示すが快樂の基となつたと云ふのは、世間一般、侯爵が息子たちに失望されたことを承知して居り升たから、人を失望させる氣遣ひのない新なるフォントルロイを公然、世の人に紹介する時、一層鼻か高く、愉快な感じが有升た。一ツには孫息子にも己れの權勢の及ぶ處、格式の嚴めしい處が心得させ度、又世間の人にも充分辨へさせ度思われて、頻に前途の計畫を致され升た。時として、心の中、密に己が過去の履歴を思想しては自分の世渡りがモ少し道にかなつて居て、純潔な子供心

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に一分始終を知られても、忌み憚かれることが、實際切めて尠くなければと、我知らず思ふ時も有升た。現在、此お祖父さまが、ドリンコート侯のわると惡名されて居たことがあると、何かの拍子で、其子供の耳に這入ることが有つたら、其美事な、おどけない顔がどんなになるだらうと思へば、何となく、快く有りませんかつた。此事を考へると、どふやら、薄氣味わるい樣になつて來て、何はさて置き、子供に其事を知らせない樣にと決心し升た。時としては此新たな屈托が出來た爲に、持病さへも忘れることが有つて、暫らくする中に、躰の具合も餘程よくなつて來て、出入の醫者さへ、意外のこととて、驚く位でした。侯爵の御氣分の快方に向れたのは、近頃に躰屈なさることが尠く、他に考へることが出來て、自然苦痛を紛らしたからの故でせう。ある朝、人々が、フォントルロイ殿が例の通り、馬でおでましの處を見ると、同伴はいつものウィルキンスでないのを見て、殊の外。驚ろき升た。此新たな同伴者はねづみ毛の立派な大馬にまたがつた、紛ひもない、侯爵どのでした。實は此事を思ひ立つたのは、フォントルロイで、ある時、自分が馬に乘らうとして、お祖父樣に向ひ、少し殘念さうに、

僕、お祖父さんも一處に入つしやるんだと好けどネイ、僕、あつちへ行つちまへば、お祖父さんは獨りで、此大きいお城に入つしやるんだもの、僕、そのこと考へると、自分も淋しくなつちまいますよ、ダカラお祖父さんも馬に乘れると好こととネイ、

それから急に、御乘馬のスィーリムをば、殿がお召しに付て、仕度をするのだといふ下指が出たので、厩などでは大騷動でした。この後といふものは、スィーリムに鞍を置くことが毎日の樣で、そうして人々は、形の少さいフォントルロイを乘せた小馬の側に、丈高く立派ながら、猛しく、鷲の樣な容貌の、白髮老人を乘せた、大馬を見ることに慣てしまい升た。それから、この通り二人して、青葉繁る小道や、景色の好い田舍道を乘り廻る中に、段々と親しく、隔意なくなり升て、老侯は間ともなしに、かあさんのこと、かあさんの日々の仕業などに付てさまぐの話を聞れ升た。フォントルロイが彼の大馬に尾て樂乘をして行中には、何くれとなく、調子に乘て、しやべり升た。一躰、性質が輕く、悦ばしいたちでしたから、人のお合手には持

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

て來いといふので、話しをするのは大抵自分許りで、殿の方は口を開かずに、たゞ嬉しそうな、さえ〴〵した其顏を眺めながら、話しに聞惚れて居られ升た。時としては孫に命じて小馬に鞭をあてゝ、一走りさせ、フオントルロイが畏縮もなく一とび、馳出して一向に恐ける氣色なく、シヤント跡がつて居る樣子を後ろから見て、餘程鼻を高くし、機嫌が好い樣でした。かく、一走りしてのちに、フオントルロイが、笑ひ聲に呼はつて、帽子を振つゝ、元の處へ歸つて來升時などには、何だか殊さら、お祖父さまと中が好い樣な心持がし升た。侯爵が早くも見出されたとは、嫁が中々悲惨な生活をしては居らないといふとでした。到着の日から幾程も經ない中に、貧民どもがよく夫人に懷いて來たとにお目が止り升た。どこかに病人があるとか、悲しい人があるとか、貧に迫つて居る者が有とかいへば、困つた樣に其家の門口に夫人の馬車が止つて居升た。フオントルロイがある時、お祖父さまに、

アノネ、お祖父さん、みんなが、かあさんを見さへすると、「神さまの御祝福を祈上升」つていひ升よ、さうして、子供なんかは、みんな嬉しがり升よ、それから裁縫ををそはりに、家へ來る人も有るんですよ、かあさんはネ、大變お金持になつた樣な心持がするから、貧乏な人が助け度つてしよふがないつて云ひ升たよ。

侯爵どのは、世とりの此に當る人が、若々しくつて、器量も勝れてゐゝさうして何々侯爵の御息所と云はれて、少しも恥しからぬ品格が有るといふとを承知して、決して機嫌のわるいとは有ませんかつた。それから又、其人が人望が多く、貧民どもに敬愛せられるといふとも、一方から見て心持の惡るいとも有ませんかつた。併し又フオントルロイが子供心に一途に慕ふて居て、誰よりも親しい人と、すがり附いて居る樣子を見れば、妬ましさと、憎くさが、一時胸を刺すとを免れませんかつた。老人には競爭者も無く、獨り占に子供の愛が得度く思はれたのでした。丁度其朝、二人馬を揃へて、乘り廻つた曠野のとある小高見へ登つて、遙かに眼も及ばぬほどの所領地を鞭を振り擧て、指し示し、フオントルロイに向ひ、

貴樣、この地面が一切、おれのだが、知つてるか？

サウですか？、一人でそんなに持つてるつて、大變ですね、そうして、大變、美麗だと！

いつか、みんな貴樣のものになるんだが、知つてるか？

フォントルロイは、どふやら、毒氣を拔かれたといふ樣子で、

アノ、僕のですか？、いつ？

おれが死ねば、直ぐだ、

ジヤ、僕、欲しかないです、ダッテワ、お祖父さんはいつまでも、生きて入つしやる方が好いもの、

侯爵は例の冷淡な調子で、

中々深切なことをいふな、ダガナ、兎に角、貴樣のになる時が來るは……貴樣はいつかしら、ドリンコート城主になるのだ、

フォントルロイは暫時默つて、靜かにして居升た。其間頻りに、廣い野や、靑々とした田舍美事な木立や、其間の百姓屋、城下の奇麗な所や、巍々として、年錆た、城郭の物見が樹木の向ふに見えて居る所を眺て居り升たが、軈て、妙な嘆息をし升た、

貴樣、何を考へて居るのだ？

僕は、僕が大變小さな子だと思つて、それから、かあさんのいつたこと、考へてたんです、

なんといつたんだ

雜録

支那の婦人（上）

支那の婦人は日本婦人と類を近くし殆んど相似たる制裁習慣の下に發達したり。故に其現況並に今后進步の方向何如あるかを研究するは、以て日本婦人の事に參考自顧せしむるの裨け多きものなり。神學博士宣教師エルンスト、フェーベル、多年支那國に傳道し、取分け婦人問題に眼を着けて論文二冊を作る。一を題して「支那高名婦人略傳」と云ひ、他を「支那に於ける婦女子の地位」と云ふ。共に、一二年前の新著なり。凡そ西洋人が東洋國を觀察するの評は、間ま格を出づるの卓見多きものなるが、フエーベル氏が此論の如き亦頗ぶる見るべきものあるなり。故に左に其大畧を抄出して、吾國の姉妹諸君に示すと云ふ。

（一）支那高名婦人

云く、支那に於て古今著名となりたる婦人は第一に、朝廷より之を賞表したるによる、而して其賞表を蒙りたるの謂は、一に自殺、二に寡居、三に孝行を爲したるゆゑ也。又第二は

人民の辭、即はち著書の推薦によりて著名となりたるに因ると。扨てフエーベル氏が親から詮索したるものにて、支那の婦人の事を記したる著書左の如しと云ふ、

訂補列女傳。歷代名媛圖說、一名、仇十洲繪像列女傳。古今圖書集成の中、媛閨。宮閨文選。歷代名媛尺牘。芥子園畫傳閨媛。繡像學傳。幼學故事瓊源。幼學故事瓊林。無雙譜。點校古列女傳。女四書箋註。宋若昭女論語。王節婦女範捷錄。女誡列傳。女學行。閨門女訓。女兒經。淸俠烈女演義。大悲神呪。海南一句合偈。演説佛語。海上中外畫報新聞圖說。

（二）支那の女敎

易、大學、小學其他を引證して、支那に於ける女敎の概略を敍述し、最後に之を評論して云く、

かゝる古典の女敎を通覽し來れば、支那人が婦女子を見るの思想は左の如くなるべし、

一　女性が天性、男性に異なるは、猶ほ地の天に於けるが如し。

二　啻に其身體のみならず天性も亦た男女互ひに異なる、女は陰なり、男は陽なり。

三　女子も亦た人間なりと雖ども男子より下ること一等なり決して同格となることは能はず。

四　光と諸々の幸福とは皆な陰より來り、生命と諸々の繁榮とは皆な陽より來る、而して女は陰にして男は陽なり、女は男子の力の下に服し己が儀を行なはざるを自然の天則となす。

五　女子敎育とは、女性の心を開發敎練するの謂にあらず女子をして全く男子に服從せしむることを旨とす。

六　女子は自己の爲に幸福を享くる能はず、常に男子の爲に生き、男子の爲に働らかざる可らず。

七　たゞ夫れ男嗣の母たるの格、特に宗家血統保續者たるの功をもて、女子は一層地位を引下げらるゝことを免かれ、家事並に宗廟に於ては、此所以により男子と同格に立つことを得。

八　女子は、來世に於ても亦、現世と同樣の地位に立つべし、即はち同一の良人に服隨し、且つ其子孫が獻ずる所ろの牲によりて稍やく幸福を享くべし。

新習字法

岡田起作

嘗て記したる岡田起作氏の新習字法を明治女學校生徒の科業に試ろみ、其練達の速やかなるを實見して、彌よ法の奇

あることを感じぬ。岡田君平素の持論に云く、書は人の性格を現はす、故に人によりて其跡を異にするを當然となす、然るに凡常の書家己が書風を流行せしめんことを欲して故さら跡を定め天眞流露の趣を窮屈偏僻の一方に曲げ、もて、爛熳の姿を失せしむ、遺憾何ものか及ばん、故に余は字を作るの筆法を闢き、人をして自ら筆を揮ふの技に入らしむるのみ、夫より以上筆に性情を現はすの點に於ては、專ぱら其人天才の伸るまゝに任ぜんことを欲すと」。家嚴、多年書道に執心せられ、垂教を賜ふ處ろ多し、岡田君の論之に合するものあるにより、余れいよ〳〵服す。蓋し書に二用あり、之を實際世間の日用に供するは一也、之を美術上の一製作品となすこと二也。而して、第二の事に就ては頗ぶる論あるべしと雖ども、第一の用に於ては、成るべく容易に、成るべく迅速に學得することを得るの習字法を以て最良となさずんばあらず。岡田君の新習字法の如き即はち是れ也。敎科多くして學年の短かきことを患ひとする今の普通女學校にして若し此法を採用せば、益する處ろ尠からじと思はる。

凡て世の中のことは新らしきに走り舊きを疎んずるは、自然の情にして免かるべからざるものとは雖も、久く傳はりたるものをよきもあしきもをしなべて打破するは慨はしきことならずや。中就女子敎育の道を誤りたるが故に文字の如き最も甚しとす。

夫れ書は己れの心性をあらはすものなりとは、古人もすでに之を言ひき。故に男女互に其性を異にすれば則ち其性情にかなひ、德操に應ずべき文字を學ばざるべからざるは言をまたず。

然るに今や女子にして、まゝ男子の風を摸して放縱疎暴なる字を書し、其品性にかなはざるをも顧みざるもの尠しとせず。是れ余の甚だ遺憾とする所なり。

抑も婦人にして其性情に適する書に妙あるに至らば、一見して其人の品格の高尙なるを想見すべく、苟も之に反すれば、たま〳〵以て其人を輕蔑するの念を、ひき起さしむるに至らん。此によりてみれば、其書のよしあしは、其人の德性を表出するに足るべし。然るに今人之を度外に看做し、敢て之れを怪まざるものは、蓋亦其之れを敎授する方法を得ざるに由らざるはなし。

余多年の經驗により、極めて簡易なる假名文字敎授の便法を工夫し之を他の婦人に授けしに、何れも三四ヶ月若くは五六

夕月にして假名字運筆の妙を悟り得て良好の結果を收むるに至れり。因て之を世に廣くせんとて、明治女學校の巖本大人に話せしに、大人の申さるには、其教授方は至極簡便にして且つ實驗上のことならば更に疑ひの容るべき所なしと雖も、此迄の實驗は單獨のことなるならん、今之を我明治女學校に施し大勢にても同じ樣に施し得ることの出來得れば其便益實に鮮少ならずと。余欣然之れに應じて本年四月より明治女學校の第一級生及び普通科生徒の二組を受持ことゝはなりき。夫より本日迄日毎に授業せしが、何れも余が豫定通りに着々と進步して、良好の結果を見ること、猶ほ單獨に授業すると更に異なる所なし。此方法にて推し行かば、不日本校生徒の筆跡は何れも優美にして女子の德性に適應する書風なりとの好評を博する蓋し遠きにあらざるならん。

歷代皇女の御數

十八公舍主人

余此ころ鹽原入浴中徒然の余り日本歷史を閲して見當の許記の料にもと摘出したる件々あり今其一なる御歷代中皇女のおはしましたる天皇の御名を擧たる條を抄錄して貴社に投ず。

嵯峨帝皇女二十七。光孝帝同二十六。文德帝同二十。桓武帝同十九。醍醐後水尾の二帝同各十八。應神、後醍醐、後陽成の三帝同各十七。靈元帝同十四。繼體、龜山、後圓融の三帝同各十二。天智、宇多、村上の三帝同各十一。敏達、仁明、鳥羽の三帝同各十。土御門、光格の二帝同各九。景行、欽明、淳和、後伏見、中御門、仁孝の六帝同各八。仁賢、天武、後嵯峨の三帝同各七。三條、白河、後白河、後堀河、後深草、後土御門、後奈良の七帝同各六。崇神、垂仁、清和、後朱雀、後三條、花園の六帝同各五。允恭、宣化、舒明、平城、花山、後鳥羽、後宇多、伏見、後二條、正親町、東山、孝明の十二帝同各四。孝靈、反正、聖武、光仁、冷泉、堀河、高倉、稱光、後花園の九帝同各三。開化、履中、雄略、崇峻、陽成、一條、順德、後村上、後柏原、櫻町の十帝同各二。孝元、成務、仁德、用明、弘文、淳仁、朱雀、後一條、二條、仲恭、後龜山、後小松、後光明、後桃園の十四帝同各一。

此他皇女のおはしまさゞりしは神武帝を始として二十七帝あり又皇女の帝位に即き給へる皇后に立給へる又臣下に降嫁し給へるも多くあれどさまではとて省きつ。

亡き父

佐々木信綱

信綱大人の寄せ玉ひたる文を左に掲げ私に題して示す。

思ひいづれはゝや十年の昔になりぬ我十一歲の春なりきかた田舍にてはいましの教育おぼつかなし東京に出てよき師につかしむべしと父君ののたまふまに〳〵住馴し伊勢の國を三月のはじめに出で東海道をのぼりぬ雨にとぢこめられて三島の宿にやどること三日遠く東の方を見れば山又山はとざされて白雲の中にあり四日といふ朝空うらゝかに晴わたりて日かき

の打誘むもいとめづらしき心ちす今日こそはとていでたつ降續きなはせんかたなし山かどにてと思ひしかどかくはれ渡りつればあるきて越へしけはしとて八里ばかりの坂路をはや十一になれるにこえかぬる事やあるべきかつはふたたび故郷に歸るにはあまたの年を經べし其程には開けゆく御代なればかゝる坂路をこえずしてやすく往かよふ道の出來んもはかりがたし後のかたり艸にもなりなんことはと今日こそくるしけれどのちにその苦しさをいひ出で樂しふ折のあるべきにとあるはそげましあるはさとし給へるにわが心もいさみ立て小さきわらくつに足をかためて箱根のみ坂にかゝりぬたちならべる木陰をのぼりゆく程雨の名殘の朝露ひやゝかにたちかゝるもをかしう谷のあはひに今を盛と咲つゞける花のたちのぼる雲にあやまたるゝもまたをかし母のもとをはなれて父と共に旅路をゆくは此度を加へて五度なりきそのたび毎にすゝろに物心細く故郷こひしき夕くれなどもなきにしもあらねど又うれしくたのしと思ふ事も多かりけりそは名所故跡にいたることに必車をとゞめて父はそこの歴史人々の傳記などを細しうかたり給ひまた山坂路などをこゆるときはこは何といふ木なにといふ艸にていつの頃は花のさき出るものぞ實のなりいつるものぞかの聲は何の鳥なり何の虫なり今はしか〳〵と名つけいへど昔はかくよびたり源三位は鳥の一聲なき風のそゝとふくにも心をつけられしかはよまれし歌の後の世に傳はれるか多きぞかしなどのたまひ又はわれ今かくよみ出たれば上句いまだうかばすこを連歌にせん案じみよなどおのが心をあかせぬやうにさま〳〵にいひきかせ給ふにしらす〳〵足もすゝみぬ今日も例のこと何たれの事とも語り給へときゝしにもまさりてけはしきにこうじはてゝ足のすゝみおそくなりにける頃父はふとかたへの竹林にいり給ひぬ何をし給ふよかと見ればよき程の枝を杖にせよとて切とりてたまひぬいと嬉しうてそを手まさくりにしつゝ箱根の宿にいたりぬ其頃はけはしきになれて少しは勢つきたりけりつかれたるべしつかれなばこゝに宿りて又明日こえんもくるしからずとの給ふいな我は更につかれず父上つかれたまはゝやどり給へなどいひて又たちいつそこよりしばしゆきて何といふ村なりけん今は忘れにたりその村のはづれなる茶店にいこひぬわれらよりさきに休へる人ありてそこたちはいづこにゆき給ふぞとたふわれは東の都

にと父こたへぬそはいかなる故にとゝふ角田上野の花を見に
とてかつは我子の教育の爲にと父こたへぬかの人わが顔を打
まもりてこのをさなき人のためにとならばのぼり給へ花見に
とならば思ひとまり給へ今は花をみてくらすべき時にあらず
われは金原の菜とて年頃世を益せん事を思ひてさいつ頃も濱
名の橋をかけたりなどかたるそは人のためはた世のためにい
と嬉しき事にこそされば君はきみの志をもて世を益し給へわ
れはわが志をもていさゝかにても世を益すべしと父こたふか
の人打わらひてわれも商人なれど君も商人なりといひてかた
みに打とけて父母がたりなどしてかの人は右にわれらは左に
打わかれぬかくてわしの海つらにたゝずみては波間にうかべ
るふじのねをながめ伊豆の海べを見渡しては鎌倉の右府の昔
をもしのびなどしつゝ湯本につきしは夕まぐれの頃なりけりあ
はれ其かみの事どもを思ひいづれば父の給ひし詞は耳をさ
らず道すがらのけしきは目のまへにあり箱根路は再こゆる時
あるべしされど往年の楽しさを語り出で諸ともにこえんとお
もふ父君ははや世をさり給ひぬ床にふしゐ給へる母も病すこ
しおこたりなばたゞちに箱根の湯に物せん旅立のまうけせよ
などの給ひき今より後箱根の出湯に物する時はあまた度あり
ぬべしされど其頃くわき出る出湯にもろともにゆあみんとお
もふ父君ははや世をさり給ひぬあはれかなしきかなあふぎて
大空を望めば二十六夜の月はいまだいでず唯星のかげの三つ
二つ雲間にきらめきわたれるのみふしてかたへをみればなつ
かしき面かげ孤燈のもとにありあなやと思ひて打まもれば又
人もなし今嚴本の君箱根の驛にいませりときゝうたゝ懐舊の
情にたへず十一歳のそのかみを思ひいづれば萬感身にせまり
ぬ筆をとりてそのかたはしをたにうつしいでゝおもひをはつ
けんとすれば筆世にすゝまず言外の情幸にくみとりてよ

さいつ頃より心ちあしくに悩まれてはもころなりし御文のかへりごとをもかき
出でん力なかりしを今朝はさつさめておきいでゝよべ紙のはしにかきたりしを
かうきなへて打見出せば山木に浮べる姫の月影はきこさ府の如く峯のこずゑ
になきいでし昔の聖時ならぬ時鳥に似たり八月三十一日の朝根岸の里神泉亭
の楼上にて　佐々木信綱しるす

小説

流れの菜

（第四節）　流　（上）

忍空子

盥の湯加減をちつと見凝め乍ら、齡十八ばかりの品好き侍女、
手巾を畳みては又た披らき、

どうも此頃の御樣姿……何か御心配遊してるに違ないが、お愼み深い御心操ゆへ……浮とも申し出されず、コンナ時にはアノを姆さまが居らつしやればまた伺がふ道もあらふに……夫とは變つたあのお熊が、此頃俄かに追從たらく、朝から晩までお附申して、私たちを成るだけ遠ざけるゆへ、ホンに此頃はゆるくお話し申上げた事もない……

布巾を置いて、チヤンと居直り、

何かソワく遊ばして、萬事に確と御返事のない塩梅、先達てのお歌にも、

　底しれぬ大海原にかぜたちて
　　涙のまにくふかさ知らせよ。

どうやら、人知れぬ御苦心のある樣子、ハテナ……

長樣の音高く、走り來て障子をガラリと開き、

安や、お姉エさんが、御用だよ、早くだよ、何してるんだネエ。

只今參りましやうと思て居ました所ろで御座い升よ、お茶を一つ立ましてネ。

またお茶かへ、甘くもないにね！。ダガ、早くお出よ、お熊が今しがた、出た所ろだから。

左樣で御座いますか、どこへ參りました？、

どこだか知らないノ、お姉さまのお使サ、早くお出よ！

言遁して、また走りゆく。安はニコと笑み、

ホンニ、いつも好い御機嫌だと、ちとお姉樣にもおすそ分遊ばせば好いに。

ヲイ、松造、キツトお前だろう、皆ナ逃して仕舞つてサ、困るじやないか。

ヘイ……、何をで御座へます。

何ヲツテ、アノ、トンボサ、昨日アンナに澤山とつて、入れて置いたじやないか、學校へお土産にしようと思つてたんだのに、ホントウニ困るじやないか。

ハア、夫りやあ、ソ存じません。また、あの玉で御座へませう、アイツモ困らせますなア。

靜々、茶を捧げて來りしお安は、ソト立どまり、

好さま、キツト、玉で御座いませう、勘辨してお頭遊ばせ。

ヲヤ、そうかえ、仕方がないネー、畜生は。御免よ、松造、知らなかつたのだからネ。

ナ、ナニ、どうしたしまして、勿躰ない。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

啼る聲の終らざる間に、二人はすでに南の端の閑室に入りぬ。

玉や、お前だろう、ホラ、ばちだよ、

二つ三つ、ポン／＼と頭らを打れ、逃んとせず、縮こまりて、ニヤン／＼と鳴けど、ガルネルならぬ身の、語ばを解すべうもなし。人に對むて辨ずるとを得ざる畜類こそ憫れなれ。

どうなすつたノ、好チヤン、玉が何かしましたノ。

と姉が憫れ氣に問へば、

トンボを取つちまつたノ、ホントニ非道いワ、可愛さうに。

二つ三つ又叩けば、此度は猫も辛捧せで、躍り擧り逃げ出せり。椽を飛び下り、五六間ゆきて、ツト止まり、背の毛を甜めつゝ、早や忘れたり。ニヤン／＼。此度の聲は陳謝するものと、誰れ人にも聞えたり。

チヤ、わやまつてるヨ、かんにしてあげるから、早くお出で。

怒り易くして解け易き妹の顏をつく／＼と見て、淺ましき心こそ幸わひなれ、生れて物事に感じつよく、内外の万事に悲しみ多きは、天の特更らに與へ玉ふ笞杖かや。肉を叩かるゝは倘忍びやすし、痛み去れば直ちに忘れなん。心の苦は心おらん限り去りがたく、夢と云ふ唯一つの安樂場も、昨夜はまた其侵すところとなりぬ」など、思ひ切りて涙ぐみ、やゝ頭べを垂れたり。

お嬢さま、お茶を一つ立てました。……モシ、お嬢さま。

ハイ、ありがたふ、好く氣がつきましたネ、大きによ。

また、お嬢さまの御遠慮ぶかく居らつしやるとゝ。此頃は、先／＼のやうにお使ひ下さいませんから、何やらお怨めし樣で、安は、毎日泣て居りますよ。

安が、また何をお言だ。然し熊が何から何まで仕てくれるので、ツイ知らず／＼お前を呼ばないようになつて、勘忍しておくれ。然し私も矢張りさびしいからチ、今日は熊も家へ來つたし、少しお前に話したいともあるから、

マアゆつくりこゝにおいでゝないか。

それは、おうれしう御座いま升。私も色々申上たいとや……

何がひたいとが御座りますゆへ。

ソウ、ユルリとお話しよ。

無心に庭を眺め、無言に猫と對し、傍らの談話を、朝たの軒

ふく風と同じく聞ながし居たる妹の君に向ひ、
好ちやん、あなたも、を話しの仲間にお這入り遊ばすか。
イヽエ、また鬱陶しいお話しでせう。
お口の悪いと。
冷しいうちに、採集に居つて來ますよ、二郎さんに任るんですもの。
左樣ですか、夫では朝のうちが好う御座いましやう、松造をお連れなさいヨ、アナタがポートフホリヨ（弁包）をお持だと、人が笑ひますよ。
笑つても構ひません。
夫に、邪魔になつて、御不自由で御座いましやう。
そうネー。連てきますよ。お土産を持て歸り升よ。
ドウゾ、澤山。

苦患の鎖　（其二）

ひさご

夫は今夕の現象、今夕の事件、今夕の境界、昔日の前にすさまじき悪魔とおそひきたり、かねて計畫りし事とく決定よとすゝむることとく、思はれて、胸やすからず、うちし玉のおもはぬ方にそれ行もおちきなくて、おしとく我屋へ歸りきたれど、夜半過ぎたれば、立むかふる人なく、一人靜々と我へやに入らんとする時、人の忍泣する聲聞ゆ、聞ゆる方に行て見れば部屋の隅に泣倒れ愁にしづむは松子なり、おどろき立よりて

夫「どうしたのだ、夜中にエ、咄して御聞かせ

柔しくとひかくるを、あら／＼しくふりはらひて

妻「あつちへいらつしやい、あなたに何かいはれるのは、いやでなりません、こゝはわたくしの部屋です

夫「ナ、ナンデそんなことをいふのだ、其わけを聞かんではならぬ、予はこの部屋へナせきてはわるい、夫は妻の部屋へきてもよいといふ權利がある、おまへに指揮されて退出される覺えがない

妻「さうです、さうですとも、あなたは法律家です、夫です、權利があります、權利といふことを御存じあら義務も御存じでせう、婚姻した上は、幾分か妻を信じ、愛すといふ御心がありませう、イヽへなくつてはなりません、義務ですもの、あなたがこの義務を盡して下さらば、こゝこんなにはならない、あたし共はよその御夫婦とはまるでちがひ升、エーくやしい、私し

が愚痴だからです、夫の愛を、夫に愛を受けないやうになつたのも、ばゝ愚痴だからです、私くしは狂人です、きゝきちがひです、ばかですといひつのり、いひつのりて、ワツト泣伏すを夫は苦々しげに歎息して

夫「ナアンの事々、をまへは廣子さんの事をまだおもつてゐるのか

といひまぎらさんとするを、松子は顔をあげて

妻「あなたがいつか中のやうなら、婚姻は幸福でせうが、今となつては厭嫌です、實に厭嫌です

夫「ヱーさうか、それほどにいふならば、その氣になつて咄すが、この間から實はどうしたものかと考がへてゐるのだが、別に不道徳なとがあるといふではなし、一度意氣投じて、納得づくでかうなつたものが、何の譯でこんな具合になつたのか實に解らない、

妻「イヽエ、イヽエ、解らない事はありません、私くしが愚痴だからです

夫「イヽサ兩方にわるい處があるにちがひない、それを一處にかうしてゐては、たゞ煩悶が頻數なる計りで仕方がないから、どうだい、少しの間別居といふ事をしては、この間から今日いはふかくと思つてゐたが

妻「わたくしだつて、人にかれこれ申されるのがいやですからなんしておつたのですが………

夫「では賛成だネ、マア又よく考へて御覧なさい、モウ寐やうじやアないか

デハ御休みなさいとはや他人らしく出行ぬ。松子は固より財多く身にもてれば愛うせし夫の下にをらんより己一人の快樂、己一人の交際、己一人の月日、己一人の天地、いづれにまれ旅行して憂鬱をなぐさめたしとかねて願ひつる事なれば、今度この法律家より受けし別居の宣告にかへりて心かろくしく成しなり。今日迄憂ひに沈みしも、籠中の鳥を歎きしなり、いかにもしてもとの愛を求めんとしつればなり、其心づかひ失せし上は何をうれひ、何をなげかんと、獨居の樂しみさまぐに胸の中にゑがきてこのよは眠りもやらず。夜あけて朝飯の席につけばおもてに落付たる樣子よそへど、夫の目色何となくするどく、松子は冷淡にかけかまひなく、ことさらにつくれど心の中おだやかならず、共に常とかはりしさまなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夫はあらためて松子に向ひ

夫「人といふものはおまへのいふ通り、容貌のちがふやうに嗜好もちがふもんだから、おもふやうにはならないもんだ、こゝをよく予もおまへも考へやうじやアないか、こんどの別居もどうかよく愼しんで、廣子さんのやうな浮名を立られないやうにしてもらひたいもんダ

妻「私しは人に見下げられる事がきらいだから大丈夫です、ですが病氣になつてむづかしいとでもいふやうな事があつたら、お互に尋ねてもいゝのでせう

夫「それやア當然サ、結婚した以上は快樂も患難も無論ともにする筈のもんじやアないか、これから暫時は朋友交際ダ、しかし多年の友でも隨分フトした事から絶交などゝいふとがあるもんダ、さういふ事もないやうにしたい、さうしておまへはどこへ行つもりだね

妻「私くしは別莊の方に行つもりです、母も結句よろこぶにちがいありません、別居や離婚なんていふとも自分に疚しい事があければ恥ぢる事はありません

夫「さうか、いゝ覺悟だ、が冷淡婦人と惡性男の末路はこんなものか、は、、、

妻「ちつとも冷淡な事はありません、私しは隨分愛の無盡藏を持つてゐるのです、けれども現金掛價なしだから代價がなくつちやア買へないのです、そうしてあなたも昔馴染の時子さんとでも遊んで御あるきなさい、むづ〱したじれつたいやうなものいひの

夫「よく惡口をいふじやアないか、予よりおまへの方が氣樂でよからう、呉野と毎晩夕飯を喰べて、キヤツおんだかのつそりもんダ

これらの談話いつ風が持てつたへてか、新聞にも掲載られ世に吹るとおもひしも、万夫實を告しは一月餘り過てなりき。松子は實家にかへる。やがて某女學校の教員に聘せられ轉地かたく〱或地方へ半年計りとゞまり、ほどなく辭してかへりきたり、別莊のはなれ屋に住居をさだめぬ。この頃は雪解の水一時にまさりて跡なく成しごと、松子の名口にかくる人なく、心安ければ、親しき友達つどへ月花にあくがれ徒に月日を遊くらす。ある日ゆくりなく訪きつるは廣子なり。

史傳

○博愛家エリサベス、タムソン夫人　ウイラード

有爲拔群の人は、當時に於て多くは世に知らるゝものなり、然るに、財寶裕けきが上に、理淨なる仁慈の心を以て、其生涯を送りたる高潔の人エリザベスタムソン夫人が當世のアメリカ人中に知らるゝとの最と少きは實に惜しむべきことにぞある。今を距る二年ほど以前、夫人は痿痺病の侵すところとなり、爾來其高潔清美の能力は、當今現世より招き出さるゝの時を待つの外なかりき。病中屢々友人に語りけらく余は神を敬し人を愛するの心實にして切實となり、更に益々力を之に盡さんと欲するのとき、早くも我身の力足ざる事を覺ゆるはいかなるゆゑぞやと。かゝる落膽の語は夫人は肉體健かりし頃には曾て聞ざりし言葉なりき。之によりても、彼女如何に誠實に汲々仁恵を施すに心を用ひられしやを知るに足る。余は推思す、夫人は、其化する前廿五年間に、少くとも數万の書狀を救を乞ふ人々より寄られたり。曾て余と語て言ひ給ふらく、夫人が住家は、宛から絶えず人世の悲哀と罪惡とを開く會場の如しと。斯く大數の書狀を常に身邊に堆集し、之に同情を與ふる責任のいとも重大なれば、多くの友人は、折にふれ自宅を離れて閑靜の境界に心を轉ぜよと勸む。

余が始め此高潔にして深甚なる博愛家に紹介せられたるは、學德卓絶と聞ゆる彼のパスカル夫人に依りてなり。當時タムソン夫人ニユーヨルクなる博士ヨセフ、ローザ、パカナン氏が教授せる哲學科を聞くを樂となしおはしき。一日女史を此席に相見たるに、席に列れる人いづれも富裕に且思慮深き婦人のみなりしが、中にも余が記臆の寫眞板に強く印寫せる一女史あり、即ハリソン女史なり。其風采沈着優美しかも質素朴直にして一見才學に富み博愛の相諸面に顯はる。女史余がためにタムソン夫人の經歷を語りて曰く、夫人生家をローウエルドと稱し、カレドニア郡ベルモントに生る。父は誠實勤勉にして行狀良の人なり、母は高き教育あらずといへども鋭敏明察しかも慎密温良にして容貌秀美見る人をして宛から聖位を宿せる宮殿の如き感あらしむ。蓋し夫人が靈肉を此母の遺傳恩賜といふべきなり。兄弟多ければ曾て家計困難なりし、然れば學ぶ所は學校にあらず、父母師を得しにあらねど精神

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の高潔なる天然の光景は、能く夫人を訓導せり。ハーバード大學の卒業生にて名高きジヨン、バンクロフトと學友たるボストンの一紳士タムソン氏遂に此の娘の手を得娘は即はちタムソン夫人とあれり。夫人が高正美麗にして淑徳高き能く良人を誘化せり。タムソン氏博く文學に秀で能く五ケ國の語を解し常にダンテ、ゴエテ、ヴヲルテア等の書を原語にて研究せりと。夫人常に良人が高音もて讀書するを謹聽するを悦び、大に見聞を博め愈々其思想を開發せり。

良人死に先つ數年夫人に其財産を全任せんとするや、夫人其所置に就き企望を辨じて曰く、妾が世にある間は之を善く慈善のために用ゆべし、死せし後は半をブラットルボローの貧女にあたへ、半は我等が屢々旅行し滯在せる彼のホドソン河畔のラインベックなる貧民に惠與せんとを欲すと。良人首肯して眠れり、夫人年齒三十才にして寡婦となりぬ。斯くして歳入十万弗の財産を繼ぐ。夫人常に喪服し、身に裝飾を帶びず、嘗ていへり、一片の麵包一足の靴すら欠乏を覺るの人あるにいかで獨り虚飾するの餘裕あらんやと。平素好んで自己の宅居を定めず、或時は旅店に、又或時は親族の家に宿泊したれど、夫人が財産を繼ぎたるのち第一着手の慈善は家内より初まり、數年星霜困苦の中に子女の教育に熱心なりける自らの慈母の老年を慰め過去多年の愛苦を償はんため愛すべき家宅に出來得べき丈の慰を與へし事なり。又夫人が親族中教育、職業、又家の用に夫人の補助を受けざるものは稀なりき。親戚補助及慈善事業に關する諸の事務は、兼て事務家の聞え高かりし程に悉とく一身にて整理せり。されば一朝病に臥し他人の監督に任ぜし時初て夫人が平素の事務の多端なる事を證しせり。當時恰もニユーイングランドの都府のみにて二十八の家族は夫人が保護の下にありき。其他勞働者を助力すべき發明をあし、專賣權を有するも發賣する資力なき發明家の忠熱なる教育者、婦人に關すると、婚風上の職業の改良に忠實盡力する改革者など皆多少タムソン夫人が助力を蒙むらざるはなし。其他幼稚園の利益莫大なるに感じて常に大いに助力し、又靈性の發達上音樂の有益なるとを感じ公衆のため屢ば自由音樂會を開きたり。夫人又好みて傳道學を研究し、諸の學校の學寮もしくは博愛上の多くの雜誌其他種々の會の特志者などに、數万の書を發送せられたるが、受納者は蓋し其誰

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人より來るを知らざりしなるべし。嘗て余にとふて曰く余もし年に一万弗を矯風上の費用に尤も効能多く義捐せんには其をいかに用途給ふべきやと、かゝる掛念はこれ實に夫人が衷心にして積年念々其思熱の度を加へたり。ファザー、マックグリンの貧民救助會に殊に熱心盡力せられき。又演劇の効能多きことを信じ數万弗を投じて之を利用し、又人類派の教育を行はんがため技學校を設立せられしが悲しむらくは唯之のみ失策なりける。斯る中にも何恐慈淑事を賛ぜしめしは夫人に交るところの人たる唯夫人が高恩を受けし者に止り共に之が事業を讃助する人のなき事なりき。夫人が最とめ長く居住せる一府所にて夫人を評したる人あり曰く、己が財産を投じて利益を求めず唯だ矯風上にのみ熱中する狂人なりと。余は信ず近世の人の中社會改良事業のため、博愛なることエリサベス、タムソン夫人に優るものはあらざるべし。大方の人己が博愛心もて世に盡さんとするや、信用ある他の助力者を求むること多し、しかるに夫人は獨力能く衆人を益するの力あり。加ふるに、夫人が師きたる、若くは僅かに一己人の上よりし、初よりラッパを吹て社會全躰の上よりすることをなさゞりき。

余はタムソン夫人を完全なる模範とはいはじ、又余が望む如く神の篤信者にもあらず。されど夫人が博愛心は未だ嘗て文書上傳道上に多く比類を見ざるところなり。夫人が基督の徒弟たらんを欲せしは疑なし、されば、優美なる容貌を往々悲愁に被われ、語りけらく、余もし御身程の信仰あらんには、如何に安穩幸福ならめど。蓋し靈生不朽義務命運などの事に就ては、神を信ぜざるにあらざるも、生命の光といへる意義に於て神を個内なる崇拜者となすにはあらざりき。世の同胞も又余と等しく夫人を愛敬し感謝の念を持たん。實にかゝる人は比類稀なるものとこそいふべけれ。

万國婦人矯風會の會頭ウイラード女史の賛評熱心なる家むると反の如し、タムソン夫人が徳の高きと之を推すに依りあるなり。譯者、なつ子。

慈善は家内より初まる。而して家内にのみ止まるべきものに非ず。

批評

茅廬月旦

愛山生

（一）德富蘇峯氏

蘇峯氏、英文學の感化が日本青年の腦中に浸染し將さに發して新「スタイル」を爲さんとするの當時に於て、大膽にも之が唱首となれり。彼の第十九世紀の青年及其敎育なる論文が佳週新報の紙上に突如として現れ出でし前后に於て、許多の論壇に見し作家は之を概するに、皆從來の文躰に泥んで新思想を十分に發揮する能はざるを苦しめり。彼等は固より流暢にして形容に富めるマコレーを學みたり、豪宕にして而も光焔萬丈の慨あるカアライルを理想せり、而も彼等は從來の漢文直譯躰に煩せらるゝにあらざれば、即ち卑俗なる世に云ふ福澤流なる躰裁に拘はりて、其思ふ所を言ふ十分の能力を有せざりし。

蓋し蘇峯氏の文躰に於る目的は福澤流の如く卑俗ならず、而して漢文直譯躰の如く硬拙ならず、其中間に於て新思想を表すべき、一躰を求むるにありしか如し。（去年蘇峯氏を訪ひしとき此に似たる談ありしと覺へしが今忘れたり）而して蘇峯氏は幾分か此目的を成就したり。彼は一種新躰の文章を以て、殆んど當時文壇上の老將が言破らざる所を表し得たり此段の苦心、余其容易ならざるを知る。其輕々に序し去りて一瀉千里の概あるに至りし者は必竟其精熟の結果ならんのみ。

是實に、新「スタイル」あれかしと待設けたる人々の心火に導子を與へたる者なり、從來の文躰に壓せられて其思想を伸せられたる文學上の奴隷をして自由を得べき希望の光を見認しめたる者なり。宜なるかな多年の間鬱結せる新思想は端なく此の新衣裳を着て現れ出てたると。蘇峯氏文學上の功豈没すべけんや。而も蘇峯氏は只新文躰の創造者として世に表れし而已ならず、更に此よりも勝れたる使命を帶びて世に生れたり彼は實に十九世紀文明の寵兒にして其の思想第十九世紀なり」彼が智識を何處より得たるや論する勿れ、之を熊本洋學校に得たるにもせよ、之を同志社に得たるにもせよ、ヲエンス氏に私淑せしにもせよ、新島氏に化せられたるにもせよ、彼は實に第十九世紀の文明を呼吸せり彼は第十九世紀の舞臺は即ち全世界なるを知れり故に其眼光を常に此大局に注げし、

彼は第十九世紀を轉したるべき原動力を知れり、彼は第十九世紀に於る日本の位地を解せり、蓋し前途の利際を最も善く知れる者は洛陽の少年なりし第十九世紀の大潮流と舊日本の文明との調和混融せんとする今日に於て人民の指南車となり健康なる輿論を提醒し得へき者豈ぞ九州辺陬の茅屋に潜みたる一書生ならざるを知らんや。

（二）田口鼎軒氏

鼎軒先生は第十九世紀を代表するの人なり、蓋し蘇峯氏と鼎軒先生とは頗る相似たる所あり、思ふに蘇峯氏が其大江村の寂寞に在りしとき、明窓浄机の下に鼎軒先生の文を讀んで暗我心を得たりと同時なし、程度もありしなるべし。但惜しむ鼎軒先生の議論は時世に比すれば頗る早熟なりしが故に蘇峯先生が人心改新の気運に乗じて起りし如き花々しき響をなさゞりしを。蘇峯氏が其新文體を衣て世に出るゝや、殆んど少年社會の大將が精鋭の甲胄を着し陣頭に進むに似たり、鼎軒先生は恰も衣冠優美なる儒生の帷幄の中に参謀するに比すべし。

○神秘實錄

朝野新聞が掲載する神秘實録は、德川氏千代田城大奥の有様を細かに記し其上の事を知らざる今の人に非常の益を與ふ、特に此頃の紙上に連載する女官職制など、は、女學者の一讀して然るべきものなり。

○和田垣博士の婦人論

前日の頃ある學校にて例の滑稽調子なる和田垣君の演說、婦人教育論と題するものに於て頗ぶる愉快を極めたるよし。吾人は不幸にして之を聞かざりき。然るに此頃の六合雜誌に掲載したる筆記は還し之に同じ筋のものと思はる。一讀するに成程面白くはあれども怪しからざる普通の言なり、世上すでに言ひ盡され陳し倒されたる在ふれたる陳腐論なり。

○唱歌と禁酒

歌をうたはん程のものは飲酒を廢しまずんばあるべからず、然るに我國の風習として歌ふものの必ず酒に耽るの弊あるは何事ぞ。レノックスブラウン氏は音聲の使用と酒精との關係を論ずる際に當時の著名中アメリカの主なる唱歌者の酒精使用に關して三百七十の調査をなしたるに、百に對する三十三、三は禁酒者なるを發見しぬ今其中の主なる實例を掲ぐ英國に於けるサンタリルの教會の唱歌隊の首の云く、余は音聲の如何と云ふ事に就き左右く論するならねども、只余が此論の經驗によるに、之を用ゐる時は恰も冷水を飲たる後の如く、咽喉筋力の機能を衰へ疲勞を來しむ。かくし余は十五年間毎日唱歌を引受くるも敢て疲勞を感ぜざりしなれど、後には甚だ然ざりし、又余は全くの禁酒家には非ず然し職務上有害と認しを以て含アルコール劑は之を用ざるなりき」アンマークセルのフリンクエドモンド氏は云く、發音上アルコール飲用の有害なるは論をまたず其は度を過ぐるに隨ひ多量を用ざれば最初の如き結果を得ざるに至るを以ても明なりき。クペックチャペルのヘンリーカーヒル氏は云ふ、余は純全たる禁酒家なり、余年齢既に六十に進しぬ、然して愈々音聲清朗強健たる知く十年以前に優る、余は常に多くの演舌と唱歌を公すの習慣なりしが嘗て或る日にかて千五百人の聽衆の前に立ち演舌し且唱歌しける時、最遠の場所に在るものも一言一句を明瞭に聞得たり此時只適宜の飲料を用たるのみなりき」リボンカセドラルの音樂士タロー氏は云ふ、余は純全たる禁酒家なり余は禁酒の所以たる蓋し余が職務を全し能ざればなりき」グローセルカセドラルの聖歌生ノッレドエバンス氏は云ふ、余がアルコール劑を使用せる間は、此を禁する當時の如く、唱歌を永く續くるに耐えざりき。

文學

池袋清風大人批（案山子第一卌中）

子規

尾崎

、子規なくねばかりとなりにけり月入はてし松むら立（浦の原）

、谷庭の雲（陰のうちなる）にかくれて子規聲のみ高くなきわたる（聞えける）かな

橘

尾崎

、故郷は昔をしのぶ人もなし橘（花）ばかり香ににほひつゝ

市村

うたゝねの夢もむかしにかよへるは花橘のかれはなりけり

高原

橘のちりしく庭の花むしろ遠きむかしの人やつとはん

江間

、（ぬ）うば玉のやみの床（の）夜も絶えす手枕に花橘の匂ふゆかしき

評烏羽玉といふは中古の謬也古はぬば玉也

五月雨晴

尾崎

、梅の實のうみては落るおとのして軒端に晴る五月雨ゆ雨

尾崎

、夕日さす柳の原（高柾の松）に蟬鳴きて五月の雨は晴にけるかな

評柳か原とはいつこなりやかゝる地ありても常正の方よし

市村

、自づから心も晴れて五月雨の雲の絶まに（限り）ながめづるかな

評絶間では五月雨晴れすとも

時事

○大快報

前の群馬縣知事は、縣下十ヶ所の遊廓中先づ三ヶ所を廢し試み中なりしが、新知事は猛然果斷し、殘七ヶ所をも明治二十六年限り全廢すべきことを告示したり、何等の快事ぞ。而して岐阜縣の如き、從來公娼なかりし地に之を置いて一層弊害の太甚しく密娼の大に增加したることを實驗し、前書記官白洲退藏氏すら尙ほ廢娼論を唱道せられたるが、果して本年の同縣令何は、必らず之を全廢するの見込なりと云へり。

○自由黨と自由俱樂部

內藤魯一氏仲裁となり、二者を結合せしめんとに盡力せらる由、所謂る區々恩怨の外に立つとは當に然るべきと也、夫丈けの理由にて相離反せらるゝならば固より融然和解すべき筈也。但だ果して然るか否やを問題とす。

○讀賣新聞の女學生醜聞

例の如く讀賣新聞は女學生の醜聞を連揭したり、然るに、企の使ひ方、言葉の遣方、うわさなどの外、醜聞となすべきも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のなきが如し、鋭意なる所を穿鑿する所ろの記者にして尚ほ此點に短所を發見し得ずとせば、今の女學生は近年大に進歩したりと云ふべし、若し夫れ金の使い方、言葉の遣い方などの隱やかならざるを以て醜の極となさば、今の日本男子は大抵皆な極醜の地に立つものなり。

○黒田伯のステツキ

黒田伯が酒を飲みステツキを揮はるゝ頃ろは、内閣に遠からず一變動のある時也。

○博士　○○

博士はハクレにして古への博士にあらず、當不當を八釜しく論ずるは餘りに御山らしきやうに思はる、博士の資格は斯くなりと格定したることもなし、先づ現在の博士諸先生人の如きを博士相當と思ひ居らば然るべし、特に博士達中にて評判とかいふものを為さんとの計畫あるよしは、定めし苦心の事也

○婦人矯風會の為に惜ず

福音新報及基督教の寄書欄内に此頃洗生と號する人が婦人矯風會を論ぜられたる一文は大ひに事實に相違し而も該會員の精神を誤解したり。婦人矯風會はレビツト夫人の勸動によりて降誕したりと雖ども初めより無名無門なる者にあらざりき。然れども其安藤太郎氏をして意を決して起たしめたる如き又は恐るべき技術式の日に於ける運動の目覺しかりしが如き類ひは日本禁酒會衆の上に於ける該會の功績を千古に傳ふるに足るべし、後ち安藤太郎氏自ら創設し其天職を前記して矯風の事業中主として禁酒の一部門に熱中盡力せらるゝに至りてより婦人矯風會々員は禁酒事業を全く同氏に委任し而して其東京禁酒會中に派て入會するとさなしぬ。アツカマン女史東京の目賭人自標俱樂部員のみ之れを助けたる如く言做すは大ひに事實に違へり。明石町十五番館に開きたる委員會は何人の催したるものぞ當時主なる婦人矯風會員特にアツカマン女史を助けたる婦人矯風會員にすら招待状を發せざりしにより來會せざりしは無詞の事と云ふべし。又矢島會長の功德を賞々するは頗ぶる可なり同女史は婦人矯風會の歴史に永遠記念すべき人也。然れども淺井會長の事業を保守派とし除に之を非るは偏僻の見なり。總して婦人の温和なる會合に協らより物を容れ其不和を害し進歩を傷ふは此頃淺薄無情不公不信切の批評あるによる。男子にして義俠の路あらん程のものは呉々も心すべき事なり。

通信

●米國通信　　ウイルソン女子大學　塚本ふじ子

御分れ申せし以來すでに一年を異郷に送り其間常に女學雜誌を一親友の如く思ひ樂しく拜讀に申候。百七十三號の「我が子、人の子、母」は御○○の御作成ならんと推し上候折しもアグニス[illegible]を讀み居りし故そゞろに貧民の小さき御事申候小女は一ヶ月俊人の宅に招かれ楽しき家庭に日夜を消し只今は當大學にありてワグン語學及び居住六年間のワテンを四年間に修めんと致し居候間誠に多忙に暮め居候。

宮川お蝶嬢は夏休中はメインなる或下宿屋に働き候居候由。杉江たつ嬢はアーモスト病院にて看護學なり。

大倉政子姉はマリス夫人と同道ニュウポート近邊に御出津田梅嬢はマサチュセッツ州ウード館にて擇れて御好みの生物學御研究被遊居候。

當大學にてはウエレスレー或はホリオク大學の如く下宿家政、料理等實地致し不申候へ共此學年終の一週中は役府より當時有名の料理學師ロール夫人（役府にて料理學校長）を招し毎日三時間づゝ講義をきゝ實驗上に其成績を見實に益を得申候同説は中々學理に據でられ悉く學理に基き説明せらるゝ故學生は皆々議論致し申候不若料理等は下賤なる事の様に思ひし學生も夏中には各一週間ご得し智識を實式致し候へば小女も折々は廚房に下り行き實習致し申候（昨年賢兄の御話等

思ひ出し我國にもロール師の如き婦女はなからんか等想像致し申候。
去ル六月卒業せられし人十四名内十名はB・A二名、B・S・一名、B・Mの位ふ揭けられし一名はボアルーミコヂクを卒業せられてB.A.の學位を受けられたる一人にてエム、シー、ハロナエル嬢は日本仙臺へ教授さして招ばれ九月中旬御出立に候

○ゼイムスラッスルローエル氏當月十二日頃一ヶ月間の病氣にて長逝せられしは實に文學界の一大損亡に候（ソヰチオル、ホールムスの心淋しく思はるゝは無理もなし）

○御承知ならんがモーリス夫人の一娘にてウード牧師に嫁せられし方にも二ヶ月前御永眠被遊二人の小兒を殘され候實にモーリス夫人の御歎哀の程察せられ申候然し同夫人の信仰ふかく益々御熱心なる御風采には驚き自らの足らざるを嘆し申候

○數日前は暑氣甚しく大都會にては九十五六度より百度日あたりさか云ふ病は中々多く御座候當大學は深林の中にありて中々暑氣を感するなさはなくストーフの入用を感おほへ申候御地は中々暑氣甚しからんさ御察し申候皆々樣御自愛專一さ存候。

昨日の事新聞紙を一覽せし折柄ふさ「八十年前のエール大學」さいふに心づきて讀みけるに近き頃長逝されたる故セーヂーウヰクハムの一話にてありき當時

入學試驗

ラテン　ホルヂル　シセロ
グリーキ　新約聖書數章

三年生科程

ラテン　タシトス　サラスト
歷史　タイトルス氏歷史
理科　エンビールド物理書
演說　作文

四年生の學科

倫辭學　ロク氏名文
倫理　問答書

生徒三十名　校長、教授一名教授の任を取らる　教場に黑板なくストーブには石炭なく辛く學生の山野におさり得たる柴を用ひしのみ云々之を讀み終て思ふ樣小女も八十年前生れしならば昨年はホルヂルシセロサラスト等も讀みし故（今少し休暇にグリーキを學ばゝ）エール大學上級に加入せらるゝものをさ。

それより自らウヰルソン大學の昔を忍び思出せる樣此ウヰルソン女子大學も廿一年の昔始めて設立されし頃は定めて科程も卑かりしならんさ書記なる人に乞ひ當大學の歷史をかりて讀みぬ（當ウヰルソン大學は千八百廿一年ザラ、ウヰルソン嬢の寄附に基き設立せらるさ又其始めに唯數十名の學生をもて開校せられ恆より學科もすりて卑く當時の四年生は今の二年生に比して尙劣れる程なりき校長も再三更り當時の校長に至りてより生徒も五倍し校舍も六倍し設立の爾役員等が他日當大學を終にエール、ハーバート、プリンストンの學域に進達せしめんを期すさの語を聞く實踐し今や日に月に學科は高尙に倶にプリンストンパサルさ併立せんさす殊に右二大學さは密接の關係を保持せり。
廿年前は當ペンシルベシヤ州若くは隣國より來學せしのみなりしが今は北メインより南テキサス東ニウセルシーより西キャイホルニヤに至る迄或は大洋の彼方よりも遊學するもの猶々あるなり。今朝しも九年前此大學に一兩年間留學せし人の來まして大學の進步を聞きて久しく再び來學せばやさ望みしも身は遠く北方ミニソタ州にありて思ふこさ叶はざりき然るに數日間ニウヨルクに遊びし故幸に訪問しぬ。何卒して校內を見まほしさ乞に應じて案內せしして理化天文其他學術上に非常の進步を見て幾度さなく「嗚呼私も今一度留校致したし」さ歎ぜられぬ。

小女此を思ひて自ら思ふに八十年前にエール大學にあらずして今此年此大學に留學するは最大の幸福さ存候

女報

あい子編

●皇后陛下より御菓子料下賜　陛下には去日御代理を以て、山田伯の病狀を訪はれ、御菓子料金百圓を御下賜相成たりさいふ。

●皇女の御入學　富美子女王殿下には、去る九日華族女學校へ御入學相成りたり。

●共立女子職業學校　神田一ツ橋外なる同校にては、新て建築中の新校舍落成したれば、去る十一日引移りたり。

●東洋英和女學校　麻布鳥居坂なる同校にては、學生より送るところの、或は受くるところの書狀は一々取締役見たる上にあらざれば發受するを許さず、しかして每週土曜日にいたらざれば手近したる信書を學生に與へず、訪問者は折よく面接時間に來るものにあらざれば皆謝絶して會ふことを許さずといふ、京都高等女學校に於けるよりも一層の取締さいふべし。

○薙刀無三四行女丈夫　此頃薙刀修行の爲め日本九州諸國を無三四行すさ名乘りたる村上勢以さ云ふ女丈夫明治女學校の道場に來訪したり固より古し風の仕合ひさ云ふものもあるまじきが定めて面白き事の多かりしなるべし

●依田雄甫氏　同氏は文科大學の撰科生となりて專ら日本文學を研究せられたるが此度び明治女學校高等科の日本歷史の科を擔當せられたり。尙ほ同高等科の倫理教育の二科は此期より嚴本が擔當することとなりたり。

●香蘭女學校　日曜說教の育ふ所によれば香蘭女學校は此九月より目的を一變と

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

廣く生徒を募集し平民主義を採らんとせらるゝよし。

●我國の友仙染英國婦人の嗜好に適す　京都の名產なる友仙縮緬は英國婦人の大に嗜好する處となりし由にて漸次輸出の增加するある有樣なるが從來輸出する處のものは花々しき彩色あれば婦人衣裳には適せず專ら羅紗或は机掛に使用するに止まれり是は蓋し外國人は燦爛華麗の品柄を賞美するとの誤想に出でたるものなるべし然るに婦人の衣裳に適するは淡淺上品なる色なりとす尤も毎年流行の色取變更すると雖ども友仙の模樣は鼠色に小形の花草虫類又は蝶の如きものを嗜好するの傾きあり此等のものは本邦內國のみの需用に供するを以て大巾の品を目擊したることなし縮緬は春夏衣服の原料に適し其季節流行の色取模樣は巴里にて其前年の冬季に決定するを以て豫め歐洲出張の當業者は本邦製造元へ特約し置き其流行色を探知し電信にて之を通知し大巾ものを製造し輸出したらんには一層需用增加すべしと同地よりの近着の報に見えたり（東洋新報記事）

●日本織物會社　本社は東京市日本橋區本町四丁目に設置し工場は群馬縣上州山田郡桐生新宿に在りて俗に桐生城の名あり蓋し其建築壯麗にして規模の宏大なる宛かも城廓の觀を爲すに依り此名ありと云ふ。組織は株式にて本會社、金額は五十万圓、拂込金額は四十二万五千圓なり。創立は明治廿年十二月、開業は二十二年、目下漸く會社成立の機運に達し來る廿五年三月には利益配當の擧あらんとす。工場は水車蒸氣、瓦斯等を利用し撚子縮緬及其他數種を織出す就中絹撚子の如きは品質良佳價格非常に低廉にして一等より四等に分類し世間の好評を博す。場內には左の區分あり　織部、撚系部、練部、整理部。職工は現今男女五百四五十名を使用し猶目下女工百名余募集中なり、勤勉なる職工の爲には特に優待の法を設けて之を奬勵す、工女給料は比較的余程高尙にして職工の教育を受けたるものは昇進殊に速かなりと云ふ。今世の無業に慵む姉妹等に此會社を招介せん爲め其組織の大略を述べて參考に供す同處の女工たらんとするものは安じて其職に就くを得べし蓋し此會社は朝起暮臥基礎の定まらざるが如き比にあらざればなり。

○婦人投票權　七月廿九日に開かれたる中央公會に於てロフタスブロック夫人の招待により神智協會長にして目下日本に來遊せるとのあるチルゴット大佐は婦人投票權に就てモルガン、ブラウン夫人が演舌せる女子も男子と同等なる投票權を得べしと云に就き熱心演舌せられたり。當日雨天なりしかど、聽衆堂內に溢れん計りなりき。チルゴット氏辯論中に言く、神智協會は此說を贊成する處なりされ、氏は東洋哲學をマダム、ブラバツキーの教授によりて研究し後十七年間女史と共に働きたるを以て婦人の能力の社會の事務を處理する十分の價値ありと確認し、氏が哲學上の意見に基き之を證せられ、其立論の基礎は靈魂人體に寄存し又男女に依りて差別なしと云にあり、之を以て同氏は躊躇せず益々進んで日本及錫蘭島の女子が進步の機を引き曰く、日本にては當時同國皇后陛下が保護の下にある教育會の會員中大凡一千の婦人の記名あり、錫蘭にては男子のみの爲め五十四箇の學校あるに感激せられシンガリースの貴婦人等は女子教育に力を盡さんとて一の會を開き既に二千八百三十名の同盟者を得、然して每日戶每に數錢の金を集むるに務む。此く熱心なる盡力は遂に五箇の女學校を開設しコロムボーなる一校の如きは英學をも教授せりと。殊に當今あまり公會上に見受ざる彼のミユーラー孃は大に土着貴婦人の贊助を得て愈々盛大ならんとする彼のドクトル、エム、ビー、ライダー女史が設立にかゝるボンベーなるソロシスクラブに關する報旨を爲し最後に愈々婦女が發達を計るに汲々たる日本及シンガリース婦人等の爲忠熱なる同情を表し且希望する處ありたり。

○皇族の町ありき　英國御遊中の日耳曼皇后陛下には去る七月十一日朝英國上等社會の貴婦人には朝餐にも猶早しとする九時朝早やくもメープルズ街なる商店に出懸け給へり。同場內御通覽殆んど二時間常に一侍從の御先導し奉るありて陛下の御好みに隨ひ一々展覽品を詳明申上たりき。陛下が御好みは主に佛蘭西風にて其中尤も賞美し給ひしは路易十五世時代の裝飾をなせる繪畫室にてありき。然して桝木の彫刻せるなど英風に就ては御賞美甚多く見受ぬ。其時英國女王陛下の御好は彩色美麗なるものにして、殊に古風の刺繡ものを愛玩せられ、當日御買上の內には二百年も經しと見ゆる以太利風の美麗なる手繡の裳裝の價四十五磅なる、又其古代風の燒泥と黃金の糸にて繡またる美しき緞子の裝布四十磅なるなどあり。其他には東洋風の價安きもの被布或は磁器店にては象牙黃金などのウエッジウードの扮粧器、日本の薔花の形をも薔薇色[illegible]淡色の草子器など多く買集給へり。其內尤も主なるものは深紅色のモロコ皮製の長椅子なりけり。

○可憐なる寡婦の協會　英國にある同會は過る年中一人大約二磅を給し二百八十三の可憐なる寡婦を救濟せり。臨時入用の金額は隨時に增加を計る。近日の報告によれば同會評議會はゴルデンベルグレガシーの買入の爲め入費增加を要求せり訪問員は常に救濟を求むる寡婦を訪ふ然して同會の主意たる貧民のみにして寡婦は各自自助の法を教ゆ通信はサクビル街三十二番同會事務所書記レイゾン宛にて取扱はる。

●日本全國卒業女學生一覽（第十一回）

●地方の部

●山梨縣尋常師範學校女子部　坂田まさ子　荻原あさの　小田切うらの　篠原せん子　吉岡たゞ子　相原てふ子　安田かのへ　吉川あさの　細田ちさせ原たけ子　久保島てい子　一條ひこ子　小澤ゆき子　辻さもよ　中川おのへ　萩原たけの・高木くま子　於田みつ子　牧野あの子　撫川さみよ　渡邊きく子　山田さい子　竹谷やす子　清水こう子（合廿四名）

●佐賀縣尋常師範學校女子部　小池つぎ子　酒見ふさ子　深江きく子　源てい子　高尾ゆき子　調ゆきみ　杠いし子　福地きく子　藤島りき子　山內ゆきみ（以上十名養成科卒業）原山のぶ子　森川ため子　中嶋はる子　久布白かや子　田中まき子　藤瀨つた子　松永しが子　小柳ゆふ子　青木さら子（以上九名本科卒業生）

●石川縣尋常師範學校女子部　赤井まき子　安達はま子　倉元いの子　豊嶋さら子　岡本はる子　加藤せん子　金丸さゝ子　松本そさ子　河村みす子　河崎ゞゆん子　大村ふさ子　北方くが子　清水みさな　白山ふぢ子　藍森すゑ子　水野たみ子　小森すて子　三好つれ子　竹中さく子　富澤まさ子　伊藤のぶ子　福田ため子　松井體子　寺田ひろ子　荒木つれ子　竹中盛り子　增田しげ子　岩城ゆき子　田嶋のぶ子　機尾はつえ子（合三十名）

●栃木縣尋常師範學校女子部　阿部やへ子　岸きん子　谷つれ子　河野しげ子　福田せい子　杉ゞゆん子　三科こさ子　高尾しんの　田部井つれ　金谷ふけ子　松原しげ子　相山ひで子　小林よれ子　水戸部しち子　瀨田やす子　飯塚そう子　武藤ゆき子　森永さめ子　長屋さよ子　松岡たま子　順田のゑ子　高野ちよ子　高橋せき子　嶋田くに子　水沼いく子　山田せい子　田中さき子　大野しづ子　小倉やす子　大野うの子　酒井あさ子　田代まず子　田中ふさ子　谷村たけ子　須賀かれ子　中村しう子　大羽やす子　水沼なみ子　野原ゆう子　大羽ふじ子　糸井しげ子　太田さし子　井谷すう子　大竹てふ子　三沼能司子　矢口もん子　和賀井さし子　岡田あさ子　石川いし子　松澤かし子　大久保つる子　青木ふさ子　高谷こさ子　相場なほ子　松崎くま子　小森谷やす子　土野いつ子　青木なみ子　森川くら子（合六十一名）

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

新發明品 **手桶湯わかしの廣告**（專賣特許願中）

一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、此の儉約を爲さんには、家の內の用事を成べく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉強を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂してみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームと爲すものなり。

此主意を以て、吾社はホームを美しくするとに樣々心を碎き多年、文筆敎育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促かすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。

扨て第一に工夫したるは、手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにて圖に示すが如し。手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、夏向き行水などに使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて沸きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。目下專賣特許願中ゆへ、遠からず発許あるべし、左れど時節がら一日も早く入用の品と思ひ、八月一日より賣出したり。代價は銅製にて一個一圓五十錢とす。更らに追々工夫して廉價にて出來上るやうにすべし。

各地方にても配達運輸すべし

東京麹町區下六番町六番地 **女學雜誌社家具部**

品名	九月十七日
白米（一圓に付）一等米	一〇七（斗升合）
二等米	一一〇
三等米	一一五
四等米	一二一
五等米	一二八
正米（一圓に付）美濃米	一四五（斗升合）
尾張米	一四八
越中米	一五六
越後米	一五三
一志米	一四四
雜穀（一圓に付）本貫大麥	三六三（斗升合）
上州小麥	二〇〇
竹林麥	二三〇
梅澤大豆	二三〇
青柳大豆	二一六
吟小豆	一七三
黒胡麻	一五〇
白胡麻	一三三
鹽（一圓に付）赤穗	二六五
大鹽	二七五
本齋	四五〇
新齋	四九〇
醤油（一圓に付）最上 極上 上物 中物 並物 味噌（一圓に付）地製上白 同上赤 同紅赤	四七八 八〇 八五 一、一〇 一、一〇 一、五〇 一、六五 一、九〇 二、〇〇 二、三〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇 四、三〇〇

品名	九月十七日
眞綿（一貫に付）上々入金	一三〇、〇〇（円）
上入金	一一八、〇〇
並入金	一一三、〇〇
松入金	一〇六、〇〇
竹入金	一〇二、〇〇
梅入金	九六、〇〇
繰綿（一圓に付）板上銘大入	七九五（目）
京丹大入	八一五
坂丹大入	八二五
三上銘大入	八三五
尾上銘大入	八二五
三上文庫入	八九五
尾上文庫入	八九五
地綿文庫入	九一五
木綿各縞（一反に付）伊勢改良縞	七〇（錢）
同糸入縞	一、〇七
笠非糸入縞	八〇
佐織鼠縞	四九
同糸入縞	五七
生機鼠縞	三五
佐々縞	一、四〇
物產縞	七三
糸入愛國縞	一、一〇
養老綾	四二
三河紺綾	五四
結城地	八五
白木綿（一反に付）玉鶴	三、四五
綾鶴	三、七五
日ノ出鶴	四、〇五
若栁	三、一〇
稻岡	三、四五
逢萊	三、九〇

品名	九月十七日
製茶（一貫目に付）山城江州稲大頭	二、五五（円）
同稲頭	二、二〇
同大頭	一、八五
同中頭	一、五五
同中茶	一、〇五
狹山稲大頭	一、九〇
同稲頭	一、六〇
同大頭	一、三五
同中頭	一、一五
同中茶	九五
鰹節（十本に付）薩摩大	一七、五〇（円）
銚子上	一六、五〇
水戸上	一六、〇〇
南部仙臺	一四、〇〇
土佐大	一五、〇〇
炭（一圓に付）伊豆上	四、五〇（貫）
同中	五、六〇
同下	六、五〇
淺上	三、九〇
丸備上	二、二〇
角備上	二、九〇
水油（一斗に付）地水	六、四〇（円）
胡麻油	八、九〇
荏油	八、七〇
桐油	六、四〇
綿油	七、四三
坂水	七、五〇
石油（一箱に付）チヤスター	一、五六（円）
デボース	一、五四
ホーキ	一、五七
ロシヤ	一、五三

女學雜誌社出版書目

鈴木公蒜大人述	つれ〳〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木公蒜大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木公蒜大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	產婦小見攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野信哉	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼長著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治著	鉛子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地 女學雜誌社

通信女學第二期生新募集廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして猶發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉強をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆な學問と云ふとに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきとと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も玆に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學するとも出來ず又家に敎師を引て敎を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義錄を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、本年一月に至り、一ヶ年の課業を恙がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの七百餘名あり。然るに、去年一月申込の斯に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義錄を再版し、改めて第二回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、(衛生、育兒、看病を合す)裁縫、圖入地理、英學。

敎師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田伸子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の敎員諸君に委頼し、專ら切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵稅)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非ればは發送せず。

明治二十四年一月廿五日第一號を發兌し、以後毎月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麹町區下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第三版

百人一首講義

上製美本 五十錢 郵税六錢
並製淡裝 三十五錢 同四錢

清秋の讀書に宜し
歌留多遊びに宜し
進物に宜し
詠歌に宜し

女學雜誌社

私立 明治女學校 生徒募集廣告

小學尋常科卒業の人は無試驗にて最下級即ち豫科第一年級に入るとを得。
豫科を三年とし高等小學科の教授を悉くす。吉田のぶ子其科長たり、巖本善治氏之を監理す。
豫科了りて後ち本科を三年とす、賢妻良母を養成するとを主旨とし、家政女藝及び女學悉とく教授す。
●右各級に入學を許す、規則書入用の人は郵券封入申越われ。

東京下六番町 明治女學校

●●●●●● 專門 梅毒 痔疾 子宮 淋疾

右四科は院長が前の大學東校梅毒院勤務中只管該患者に施療したる處にして速に全治受合なり若し全治せざれば藥價返却す●但し診察無料

京橋銀座二丁目東仲通 畑中堂 山本醫院 ●●●●●●

本校は芝三田聖坂高燥の地に在つて眺望空氣在學生の衛生に適す今回良教師を聘し科目に改良を加へたり且時々學者教師を聘して演說講義をなし生徒智德の開發を補益せんとす入學を望む者は至急申込むべし
郵券貳錢を送れば規則書を呈す

芝區三田功運町三十番地 私立 普連土女學校

女學生 第十六號 一冊郵税共六錢

來る廿一日に發兌する女學生十六號には武士が節義より發したる純潔の戀愛の爲めに無想劍といふ劍法の一手を純悟せしといふ小說「無想劍」を附錄十ページに綴りしあり。
又「故鄕の所感如何」といふ題にて聖經を信念する高尙女學生に進むるの詞あり。
早く申込まずんば餘誌多からざるべし

女學雜誌社

關根正直先生校閱 小野鷲堂先生編書

女子消息 文かきふり 下卷出版

半紙形美製本 全二冊
上卷定價金貳拾錢 郵税金四錢
下卷定價金貳拾錢 郵税金四錢

上下二卷完備せり上卷の文體は成るべく普通を期したれども下卷に至りては漸次其文を高尙にし古今を折衷して而かも解し難きに至らず隨て書體も上卷は正格を失はざらん事を勤めたれども下卷は所謂かなの優美なる連綿體に移りたれば文章と書體と終始相悖らず女子書翰の錯雜せる今日に在ては實に上乘の標準なるべしされば過日上卷の出るや早くも各府縣公私女學校の敎科書又は參考書等に供せられしもの少からず然ども本書の注意は下卷を得て始て全きを得るものなれば續て著者を促し玆に完備を告くるに至れるなり而して其筆者たる鷲堂先生の書法に妙なるはかな復興の主唱者として有名なれは今更之を贅せず願くは一卷を開て本書の價あるを知られんことを

發行所 東京々橋區南傳馬町一丁目十二番地 吉川半七

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

大鋳先生調劑 髮のこやし

毛のはへる香油

一名 美人かつら

大瓶 金三十錢　中瓶 金二十錢　小瓶 金十錢

此美人かつらは極々清淨なる植物油をうすめたるものに髮をこやし毛をはやす効能藥を加へたるものにして男女常に髮化粧に用ゆれば髮をこやし髮の發育を盛んにし髮の拔け落てはげる事なくしらが赤毛となる事なし又髮のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなど生ずる事なし又產後病後などに髮の拔け始めしときは少しも早く塗用すべし拔け毛を止め毛あしを速くする事妙なり又既に拔け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實なり男女共に髮化粧に最も適當のものにして髮はさらさらとしてつやをもちねばつきあせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髮の根に塗り又は常の水油の如くにして用ゆべし

發賣本舖

東京市京橋區銀座一丁目

つやぶきん本舖 **佐々木玄兵衛**

賣藥同盟會員

銀座二丁目 岸田吟香
上槇町 安川榮次郎
村松町 岩須長藏
兩國米澤町 大木口哲

瀬戸物町 玉置金八
銀座三丁目 松澤八右衛門
池の端仲町 宇田治兵衛
元大坂町 高木與兵衛

本石町二丁目 森谷萬次郎
馬喰町一丁目 平尾賛平
小網町四丁目 黒澤利兵衛
本町四丁目 松木伊兵衛

神田小柳町明治水本舖 明治堂藥舖
神田一ツ橋町小間物店 臨屋百助
淺草駒形町小間物店 中島宮城
同黒船町藥屋洗粉 梅素亭いや
下谷下車坂町角櫻香油本家 さゝい太郎
同 同町免許藥舖 吉川亀太郎
同下車坂町免許藥舖 宇藤五郎兵衛
日本橋區二丁目小間物店 柳屋五郎兵衛
通油町新道小間物屋 村田藤七
同坂本町南角藥店 德田多助
日本橋區室町三丁目紳藥本 家賓生堂
横山町一丁目小間物問屋 天野源七
同二丁目鷺甲小間屋 江川金右衛門
四ッ谷傳馬町小間物問屋 山形屋定次郎
赤坂一ツ木町角洋物小間物 店松下
麹町區三番町免許藥舖 雨宮
麻布區永坂町保玉散本家

小石川諏訪町一等散本家 花島榮文堂
本郷五丁目藥舖 高淨生堂
同眞砂町藥舖 尾本成治
横濱尾上町一丁目藥舖 鈴木學太郎
同所賑崎町一丁目小間物店 里見金治郎
同伊勢佐木町四丁目角唐物店 小池長二郎
同住吉町五丁目かなけ物店 信濃屋品太郎
同吉田町一丁目三十番地 加藤芳五郎
同太田町四丁目唐物店 松葉屋又助
武州八王子八日町小間物店 山田仁助
相州横須賀旭町藥 大谷金之助
同所大瀧町賣藥小間物店 豊平屋源次郎
同汐入町藥 松本花平
相州横須賀汐留町小間物店 山本金兵衛
同所小田原線町 小西屋久次郎
青森縣弘前市本町 油屋

越後中條町
下總國佐倉町洋物勸町
駿州吉原町
同靜岡呉服町
山梨縣甲府柳町
仙臺大町四丁目
福島和洋小間物店
長野上後町
山形山下
福井佐佐龍町
靜岡吳服町五丁目
山形旅籠町
磐城平四丁目
函館末廣町
熊本市細工町
神戸元町鐵飴本舖
武田恒七

桂屋正藏
湖野屋和助
佐野屋熊次郎
日下部現七
松田屋七右衛門
高橋藤七
米山商店
中野商店
渡邊正三郎
木村捨松
伏見屋善藏
鈴木又七
加藤達吉
新田太平
紅屋治三郎
横田孝史

神戸元町一丁目藥舖
廣島市播磨屋町
廣島市細工町藥舖
大坂四ッ橋南詰ドクトリ丸
同心齋橋筋安土町
名古屋市本町四丁目
岡山市上之町
播州姫路福中町
京都柳馬場四條上る
加州金澤堤町紫雲小間物店
上州高崎店物
越中富山二番町
秋田土手長町
奈良縣奈良町
福岡縣下博多中島町
長崎縣佐世保元町

赤井筒中村賣藥店
福井成美堂
高坂萬兵衛
本林丁子堂
大崎組商店
土屋惣兵衛
細井謙舍
赤井筒支店
田中庄兵衛
亀田伊右衛門
若林勝三郎
清水安兵衛
新田目小助
加治新三郎
常盤井支店
朝日奈支店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

此美人かつらは極々清淨なる植物油をうすめたるものに髪をこやし毛をはやす効能藥を加へたるものにして男女常に髪化粧に用ゆれば髪をこやし髪の發育を盛んにし髪の拔け落てはげる事なくしらが赤毛となる事なし又髪のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなど生ずる事なし又産後病後などに髪の拔け始めしときは少しも早く塗用すべし拔け毛を止め毛あしを速くする事妙なり又既に拔け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實なり男女殊に髪化粧に最も適當のものにして髪はさらさらとしてつやをもちねばつきあせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髪の根に塗り又は常の水油の如くして用ゆべし

發賣本舖

東京市京橋區銀座一丁目　つやぶきん本舖

佐々木玄兵衛

賣藥同盟會員

銀座二丁目 岸田吟香
上槇町 安川榮次郞
村松町 岩瀨長藏
兩國米澤町 大木口哲

瀨戸物町 玉置金八
銀座三丁目 松澤八右衛門
池の端仲町 守田治兵衛
元大坂町 高木與兵衛

本石町二丁目 森谷萬次郞
馬喰町一丁目 平尾賛平
小網町四丁目 黑澤利兵衛
本町四丁目 松木伊兵衛

神田小柳町明治水本舖 明治堂藥舖
神田一ッ橋町小間物店 [illegible]屋
淺草駒形町小間物店 中島百助
同黑船町樂屋洗粉 梅素亭宮城
下谷下車坂町角香油本家 さゝいや
同同町免許藥舖 吉川龜太郞
同下車坂町免許藥舖 宇藤太郞
日本橋區通二丁目小間物店 柳屋五郞兵衛
通油町南新道小間物屋 村田藤七
同坂本町角藥店 德田多助
日本橋區室町三丁目神藥本家 資生堂
橫山町一丁目小間物屋 天野源七
同二丁目鼈甲小間物屋 江川金右衛門
四ッ谷傳馬町小間物問屋 山形屋定次郞
赤坂一ッ木町角洋物小間物店 松下
麴町區三番町免許藥舖 雨宮
麻布區永坂町保玉散本家

小石川諏訪町一等散本家 花樂堂
本郷五丁目藥舖 髙島文藏
同眞砂町藥舖 尾澤[illegible]生榮
橫濱尾上町藥舖 鈴木鶴治
同所賑町一丁目藥舖 里見亨太郞
同伊勢崎町一丁目小間物店 小池金治郞
同辨天通四丁目角小間物店 信の屋長三郞
同住吉町五丁目かなつき 加藤品太郞
同吉田町一丁目三十間地 松葉屋芳五郞
同太田町四丁目唐物小間物店 山田久助
武州八王子八日町小間物店 大谷仁助
相州橫須賀旭町藥[illegible] 豐平屋金之助
同所大瀧町賣藥小間物店 松本源次郞
同汐入町賣藥小間物店 山本[illegible]平
相州橫須賀汐留町小間物店 小[illegible]屋金兵衛
同所小田原[illegible]町小間物店 油屋久次郞
青森縣弘前市本町

越後中條町 桂屋正藏
下總佐倉[illegible]町 [illegible]野屋和助
駿州吉原[illegible]屋町小間物店 佐野屋熊次郞
同靜岡[illegible]町小間物店 日下部現七
山梨縣甲府[illegible]町 松田屋右衛門
仙臺大町四丁目小間物店
福島和洋小間物店
長野上後町
山形[illegible]
福井[illegible]五丁目
靜岡吳服町
山形旅籠町
[illegible]
函館[illegible]小間物店
熊本[illegible]町二丁目
[illegible]

神戸元町一丁目藥舖 赤井筒中村寶藥店
廣島市播磨屋町藥舖 福井成美堂
廣島市細工町 高坂萬兵衛
大坂四ッ橋南藥舖 本林丁子堂
同心齋橋筋安土町ドクトリ丸 大崎組商店
名古屋本町四丁目洋物問屋 土屋惣兵衛
岡山市上之町六十一番邸 細謹舍
播州姬路綿町中[illegible] 赤井筒支店
西京柳馬場四條上る 田中庄兵衛
加州金澤片町紫雪本舖 龜田伊右衛門
上州高崎[illegible]町小間物店 若林勝三郞
越中富山二番町 清水安兵衛
秋田土手長町 新田目小助
奈良縣奈良[illegible]寺町 加治新三郞
福岡縣下博多中島町四番地 [illegible]井支店
長崎縣佐世保元町五樂 朝日茶[illegible]店